

勘定奉行取扱向ノ儀ニ付勤方達書

覺○中

一 佐倉小金牧○中

右之分、只今迄神尾若狹守一人ニテ相勤候處、向後者御勝手方之もの不殘掛りニ可相心得事
〔總常日記〕葛飾やこがねの牧の駒えらみ心にのりてみるもいさまし

〔小金野御狩記〕御狩場の原は享保のむかしは、中の御牧とて、馬飼給ふところなりしを、寛政の御時とかや、この御牧を二ツにわかちて、土手作らせ給ひて、常に乘めで給ふ南部の馬をこゝにわかち放ち飼しめ給ひたり、故にこゝを御園の御牧と唱ふるよしなりけり、此度も中の御牧の馬は三百程も有しを、みな六芳野といふ處へ七里ばかり追やらせ給ひ、また此御牧のは五十程も有しを、皆牧士のものへ分ちあづけしめ給ひしになりけり、御立場のあたりは御園の御牧なり、五助木戸と云より東は中の御牧なり、此木門より南へ土手ありしを、此度三百五十間崩して、御園中野一つの牧とはせさせられしなり、土手は六十間二十間五間とたよりあしき處は、皆とりはらひたり、常は御園木門といふところばかりなるを、そこもひろげたり、六十間切崩したれば、こゝを六十間の御狩の入口とぞいふ、

〔和漢三才圖會陸奥六十五〕尾ヲフツ、マキ駁ウシ牧 奧ウシ牧 荒野ウシ牧 花ウシ牧

共在南部領駒牧也、毎年出數万匹駒、於仙臺及出羽、新庄尾花澤立市賣之、但花牧今旅館多有遊女等、稍爲繁花地、

〔藝備國郡志上〕安藝ナサケ牧場 一號ナサケ情ウシ島 一號雪島、屬安南郡、兩島之間、相去海面九里餘、其島有山有溪、山

下平曠、自春至秋百草繁茂、群馬畜養其間、生育蕃息、每歲出良駒、國人實有賴焉、

〔朝野群載十七〕佛寺施入帳

私牧